

# 令和5年度 第1回小樽市新総合体育館整備検討委員会 議事録

開催日時：令和5年5月31日（水）14:00～15:30

開催場所：小樽市教育委員会第2会議室

出席状況 ○委員・・・9名

中川委員長、幸谷副委員長、

齋藤委員、吉田委員、遠藤委員、鍛冶委員、長谷川委員、奥山委員、廣瀬委員

○教育委員会・・・7名

鈴木部長、近藤主幹、真鍋主幹、永井課長、久保田主査、荒谷主査、浪岡主任

○株式会社建設技術研究所（委託業者）・・・4名

## 1. 開会

- ・ 【事務局】全11名の委員中9名が出席しており、小樽市新総合体育館整備検討委員会の設置及び運営に関する要綱、第5条第2項により、委員会が成立していることを報告する。

## 2. 委員紹介

## 3. 事務局紹介

## 4. 委員長挨拶

- ・ 【委員長】挨拶。昨年度は新総合体育館の「基本コンセプト」を検討したが、今年度は、新総合体育館の「具体的な姿」を明らかにしていく作業となる。今年度の基本計画策定こそが、新総合体育館建設に向けての最大の山場といっても過言ではない。この小樽の未来へ続く大きな事業に関われることを是非とも楽しんでいただき、常にポジティブな姿勢で会議に臨んでいただきたい。

## 5. 副委員長の指名について

- ・ 【委員長】小樽市新総合体育館整備検討委員会の設置及び運営に関する要綱第3条第2項に基づき、副委員長に幸谷委員を指名する。

## 6. 議事

### （1）基本計画の策定について

- ・ 【事務局】資料1「基本計画の策定について」説明。
- ・ 【事務局】P5、今年度は、事業手法についても検討を行うが、庁内検討組織を立ち上げ詳細を検討し、検討結果を本委員会で報告することを想定している。
- ・ 【事務局】昨年度の最後の委員会で、「わくわくするような施設を」との意見があった。本日の委員会ではにぎわい創出の方策について御意見をいただき、それらを踏まえて、第3回委員会で

議論したいと考えている。

- ・ 【委員】 事業手法について別の組織で検討するとのことであるが、どのような団体か？  
→ 【事務局】 小樽市 PPP/PFI 手法導入優先的検討指針に基づき立ち上げる、市の幹部職員で構成される組織である。

## (2) 基本計画策定の背景と目的について

- ・ 【事務局】 資料 2 「基本計画策定の背景と目的」について説明。

## (3) 施設整備方針について

- ・ 【事務局】 資料 3 「施設整備方針」について説明。

<「基本理念・基本方針」、「基本構想で設定した規模・機能」、「メインアリーナ・サブアリーナの規模機能」について>

- ・ 【委員】 導入機能・規模について、硬式テニス・ソフトテニスは「フリーゾーン不足」と記載があるが、室内テニスコートとしてはスペースが不足しているということか？  
→ 【事務局】 規則等で定められているスペースは満たしていないとの意図である。コート 1 面分であれば確保可能である。
- ・ 【委員】 タグラグビーについて、全道規模の大会は開催可能か？  
→ 【委員】 地方大会であれば十分開催可能である。  
→ 【委員】 今後、それらの大会を誘致したい。
- ・ 【委員長】 各種競技団体で定める規則は満たしているということか？  
→ 【事務局】 公式の面数についてはお見込みのとおり。
- ・ 【委員】 大会開催時には控え室（選手用・役員用）が重要であるが、会議室の活用を想定しているのか？  
→ 【事務局】 会議室、多目的室の活用が想定される。多目的室については、間仕切りを使うことにより 2 団体で使用することも想定する。格技室等も含め、柔軟に対応することが想定される。
- ・ 【委員】 中体連では式典等でステージを使用しているが、新総合体育館での利用イメージはどのように考えているか？  
→ 【事務局】 新総合体育館ではステージを整備しない計画であるが、式典等で利用するための移動式の台等の導入を今後検討したい。
- ・ 【委員】 公式・非公式の面数については、いつ決定するのか？  
→ 【事務局】 基本構想の段階で、概ね決定している認識である。
- ・ 【委員】 コートラインを引く予定はあるか？現総合体育館はコートラインがなく不便であるため、

引いていただきたい。

→【事務局】コートラインについては要不要どちらの意見もあり、今後、御意見を聞きながら決定したい。昨年、帯広市総合体育館を視察したが、薄く点線が引かれているのみであり、使用する団体がラインを引いているとのことであった。

→【委員】学校では、様々な色のラインが引いてある。しかし、新総合体育館においてユニバーサルデザインを掲げるのであれば、発達障害を持つ児童等への配慮も踏まえ、ラインは引かない方がよい。

→【委員長】今後の協議にて継続して議論を行いたい。

#### <「公認プールについて」>

- ・【委員】後志管内に公認プールがないとのことであるが、後志管内の方はどこのプールを利用しているのか？

→【事務局】北海道立野幌総合運動公園（江別市）のプールで公認記録をとるケースが多いと聞いている。

- ・【委員】全国大会への参加のためには、小学生でも公認記録を取る必要があり、北海道立野幌総合運動公園のプールでの記録が多い。小樽市に公認プールができれば、記録が取りやすくなるように思われる。

- ・【委員】公認記録が取れると選手のモチベーションが変わってくると思われる。また、水位の調整について、プールフロアの出し入れの負担などはどうか？

→【事務局】可動床は故障が多いというデメリットがあるが、床の上下がボタン1つでできるため人的な負担は少ない。プールフロアについては、出し入れの負担がかなり大きいと聞いている。給排水のタイプについては、道内の事例はないが、採用している北九州市のプールに聞き取りを行ったところ、入水等において、特段支障はないとのことである。

- ・【委員】小樽市として、水泳に力を入れたいということか？競技人数について「300名」という人数が示されたが、他の競技に比べて多いのか？小学校では、今年は2回しか水泳の授業がないと聞いており、市として力を入れているようには思えない。

→【委員】かつて小樽では、海浜学習として海で水泳を行っていた。現在は、高島小学校温水プールしかないため、授業の回数が限られている。今後、新しくプールが整備されても移動の負担があるため、授業回数が大きく増加することは考えにくい。

→【委員長】新しくプールができることで、一般の利用は増えると思われる。また、他の競技は公認コートを整備するため、水泳も公認プールとする考えもあると思う。

→【事務局】水泳に力を入れるというよりは、市教委としてはスポーツ全般について支援を行う考えである。

- ・ 【委員】昨年度は、スロープ設置ができないとのことであったため、バリアフリー等の観点から公認プールを諦める必要があると考えていたが、その後、スロープ設置が認められたことから、公認プールの整備について議論する必要があると思われる。
- ・ 【委員】公認プールについて、市外の施設に行くことがそれほど負担とは思わない。誰もが使いやすい施設とすることを第一に考えるべきである。

#### <「にぎわい創出の検討」について>

- ・ 【委員】敷地には段差があると思われるが、現総合体育館の敷地から新総合体育館にアクセスできるようにするのか？  
→ 【事務局】現総合体育館の敷地には駐車場を整備予定であり、駐車場のレベルから新総合体育館の2階エントランスにアクセスできるようにすることを想定している。駐車場については、現在の駐車場部分の他、現総合体育館の敷地も駐車場とすることを想定している。  
→ 【委員】駐車場が増えるのは市民としては良い。冬場を含め、駐車場からアクセスしやすくなるとよい。現総合体育館は、駐車場からエントランスまで少し距離があり、積雪時はすれ違いが難しいなど、アクセスに問題がある。
- ・ 【委員】にぎわい創出というのは良い観点であると思う。夏季だけでなく、冬季も雪を楽しむような施設になると良い。積雪時も歩きやすいアプローチになると良い（高低差をなくすなど）。屋内から積雪を見て楽しむようなスペースがあると良い。
- ・ 【委員】近くに小樽公園があるのは良い立地であると思われる。ガラス張りだと外の景色を楽しむことができ、良いと思われる。
- ・ 【委員】グラウンド・小樽公園の方向に景観が望めると解放感が感じられて良い。
- ・ 【委員】エントランスで常に何かのイベントが開催されていると、行ってみたいという気持ちになり、人が集まりやすくなる。外部からイベントの様子が見えれば、足を運ぶきっかけにもなる。

## 7. その他

- ・ 【事務局】「第2回委員会（先行事例視察）」は、7月10日（月）に、「アブロス沼ノ端スポーツセンター（苫小牧市）」と「伊達市総合体育館あかつき」を視察予定。  
「第3回委員会」は、7月20日（木）14時より、小樽市教育委員会1F第1会議室にて開催予定。

## 8. 閉会